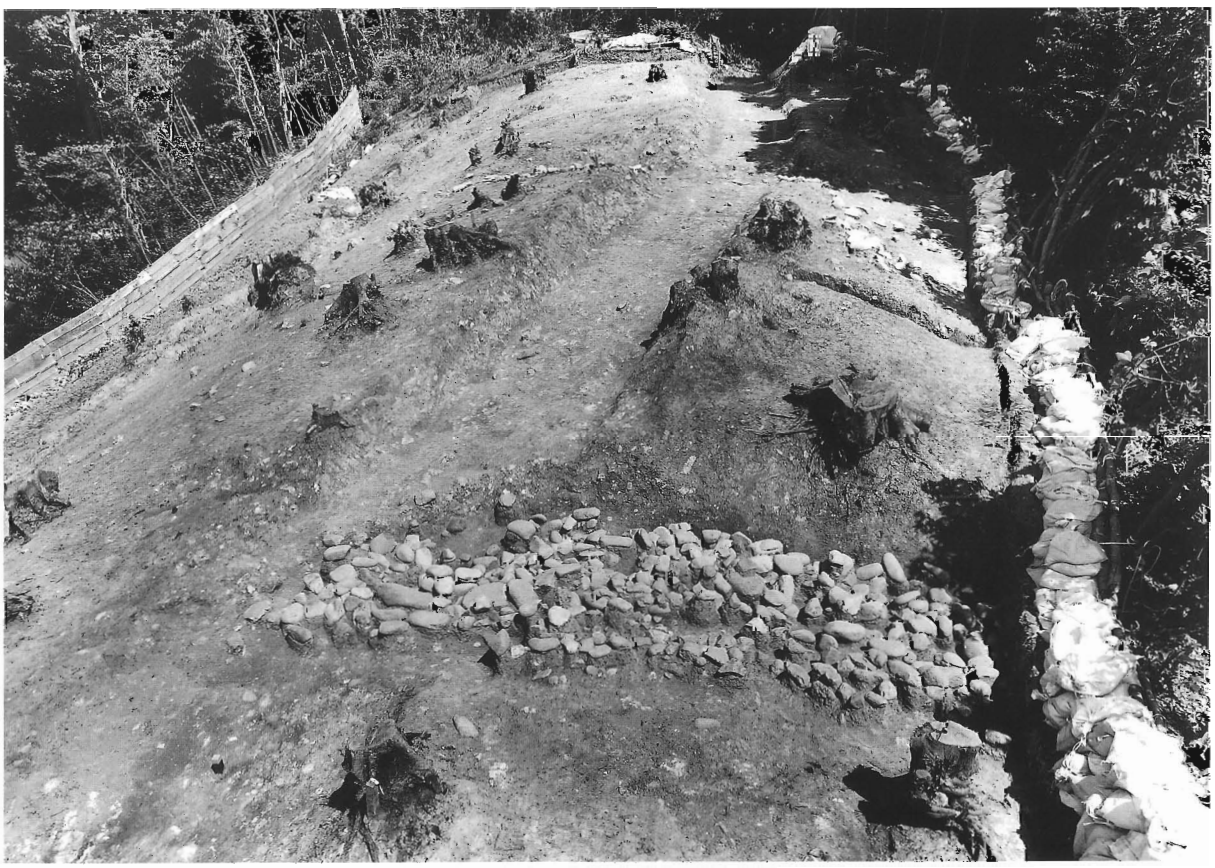
1号墓東溝検出



1号墓西溝（貼石の転落石検出）

図版93　専光寺脇遺跡

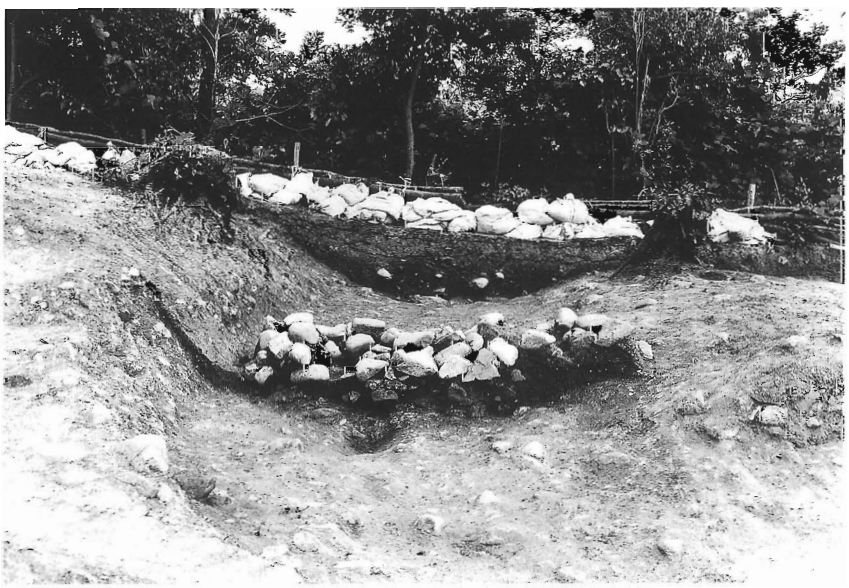
1号墓東溝土層

1号墓東斜面貼石
（転落石含む、東から）

同　　（南東から）

１号墓西溝
貼石の転落石検出
（東から）

同　　（北から）



１号墓西溝断面

図版95　専光寺脇遺跡

1号墓（東から）

1号墓（西から）

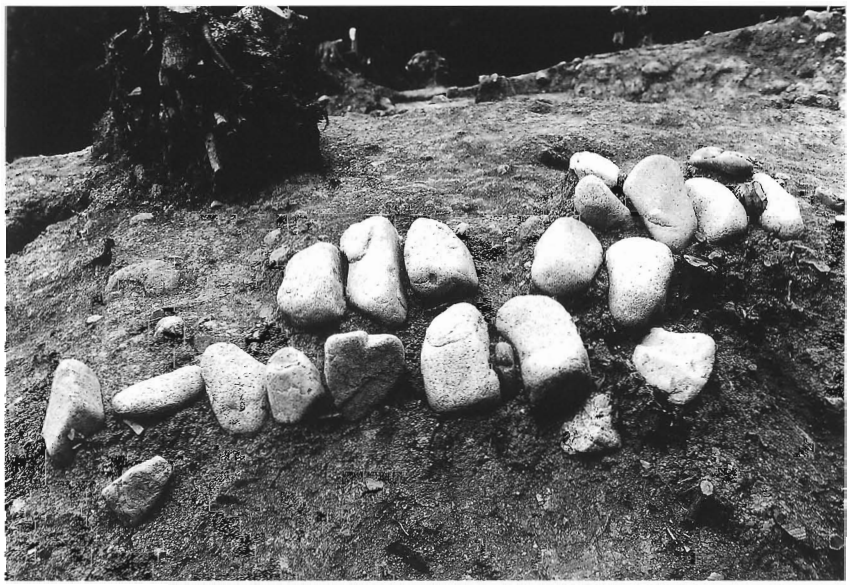
1号墓東斜面貼石
（南東から）

1号墓東斜面北側貼石
（南東から）

同　　（東から）

図版97　専光寺脇遺跡

1号墓東斜面貼石断面

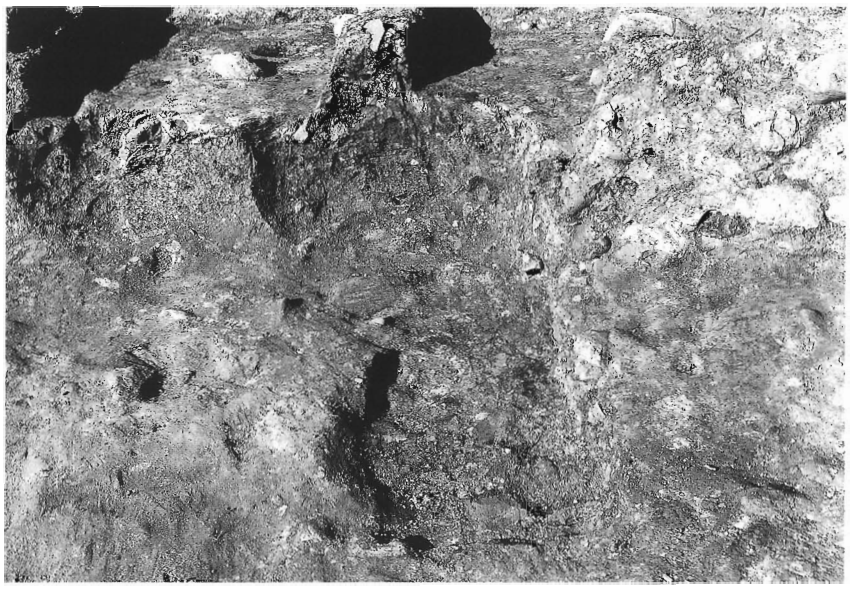


1号墓南斜面貼石
（南から）

同　　（南西から）

1号墓（盛土・貼石除去後）

1号墓西側墳裾



1号墓　第1主体

図版99　専光寺脇遺跡

2号墓全景
（転落石含む）

2号墓東溝・貼石列
（転落石含む、東から）

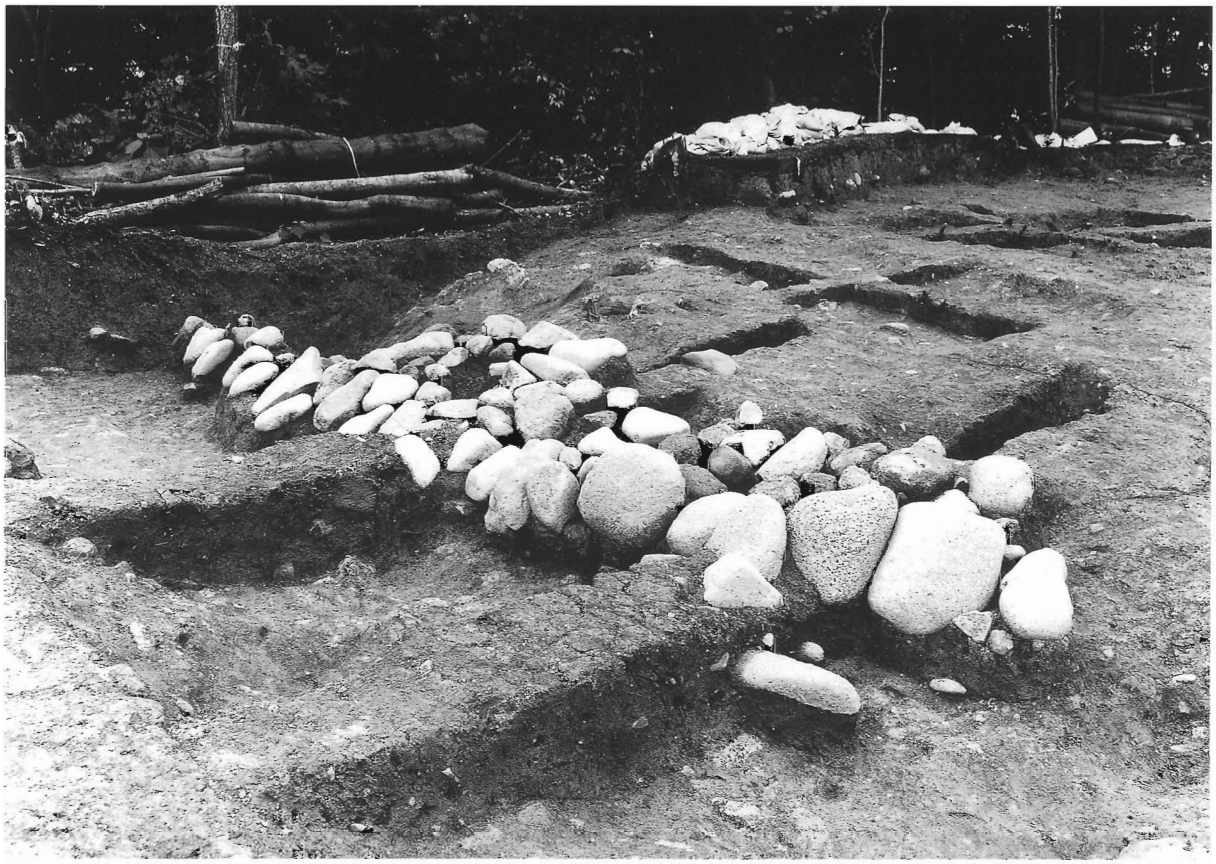
同　　（北東から）

2号墓全景（転落石除去後）

2号墓東溝・貼石列（転落石除去後、東から）

2号墓東溝・貼石列
（北から）

2号墓東溝断面



2号墓東溝・貼石列（北東から）

同（土層ベルト除去後）

図版103　専光寺脇遺跡

2号墓全景
（東溝完掘後）

2号墓全景
（SX 04完掘後）

2号墓東溝・SX 04完掘

2号墓　第1主体

2号墓　第3主体

2号墓　第4主体土層

図版105　専光寺脇遺跡

2号墓　第4主体完掘

SK 12

SK 13土層

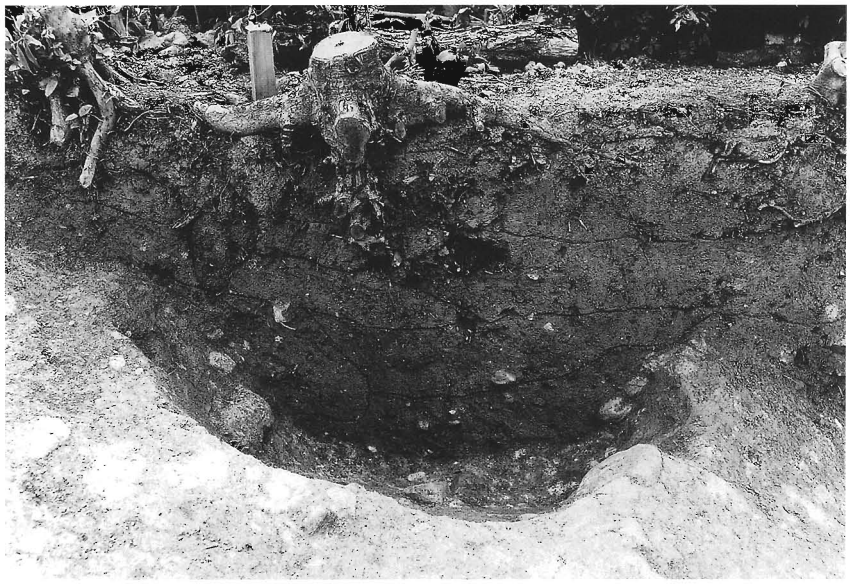
SK 13礫検出

SK 15

P 9

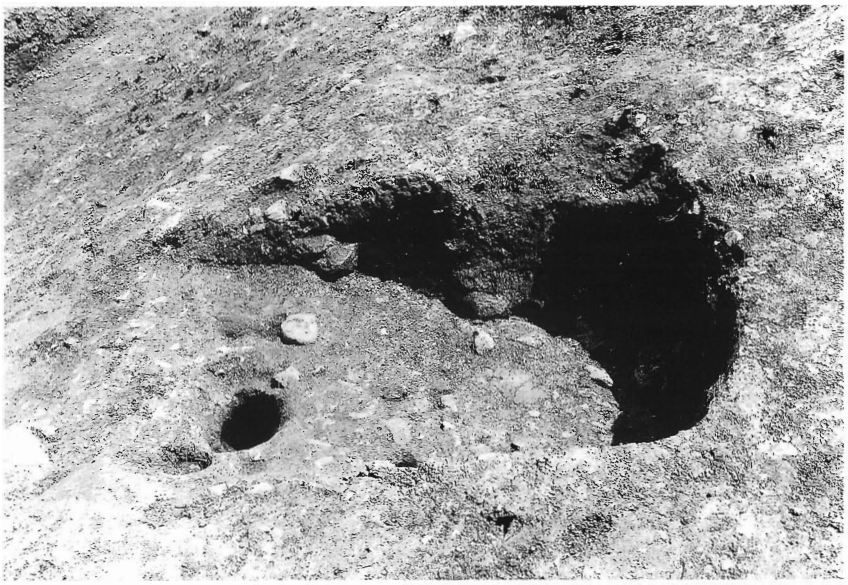
図版107　専光寺脇遺跡

SK 01



SK 03土層

SK 04

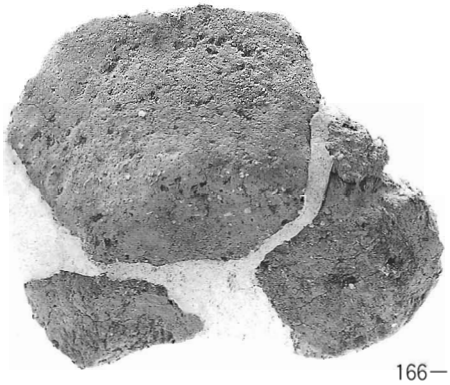


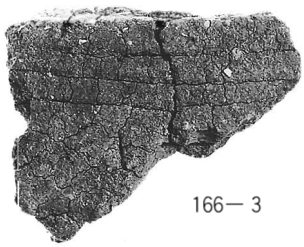
SK 05

第154図Ａ－Ａ′ライン土層

SX 03完掘

164－1


166－4


166－3

171－6

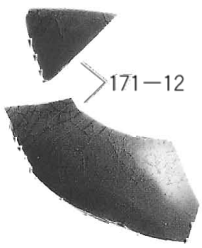
171－9

166－2

171－7

171－8

171－10

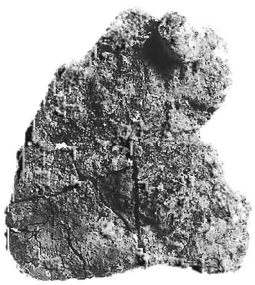

171－12

171－11

171－13

167－5

171－14


171－15

出土遺物

報告書抄録

フリガナ	オキテイセキ　　センコウジワキイセキ
書　　名	沖手遺跡　専光寺脇遺跡
副 書 名	－中世の大規模集落遺跡と弥生時代の墳丘墓－
シリーズ名	一般国道９号（益田道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	５
編著者名	東山信治，白石純，松下孝幸，JFEテクノリサーチ株式会社，パリノ・サーヴェイ株式会社，伊東隆夫，文化財調査コンサルタント株式会社，株式会社地球科学研究所
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai
所在地	〒690－0131　島根県松江市打出町33番地　TEL：0852－36－8608 E-mail:maibun@pref.shimane.lg.jp
発行年月日	2008年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積（m²）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
沖　手　遺　跡	島根県（シマネケン） 益田市（マスダシ） 久城町（クシロチョウ）	32204	Q271	34° 41′ 36″	131° 50′ 29″	20050422～ 20051227	4,000	一般国道９号（益田道路）改築工事
専光寺脇遺跡	島根県（シマネケン） 益田市（マスダシ） 久城町（クシロチョウ）	32204	Q23	34° 41′ 39″	131° 50′ 38″	20060515～ 20060921	500	一般国道９号（益田道路）改築工事

遺　跡　名	種　別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項
沖　手　遺　跡	集落跡 低湿地遺跡	縄文時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡　76 柱列　24 溝状遺構　23 井戸　6 墓　38 土坑	丸木舟、弥生土器、石器 土師器、須恵器、 中世土師器、瓦質土器 陶磁器、金属製品 鍛冶・鋳造関連遺物 木製品	縄文時代の丸木舟が２艘出土 中世の大規模集落遺跡
専光寺脇遺跡	墳　墓	弥生時代	方形貼石墓　1 貼石墓　1 土坑墓･木棺墓　4 土坑	弥生土器、須恵器 土師器、青磁、金属製品	弥生時代の方形貼石墓では最西端の確認例

要　　約	沖手遺跡は、益田川右岸の平地に位置する中世から近世前半にかけて営まれた大規模な集落遺跡である。集落は溝状遺構や柱列によって区画されており、これらと平行して建物跡が復元できることから、規則性をもってつくられた様子が窺われる。貿易陶磁なども多数出土しており、遺跡の立地や遺物の内容から、益田川の水運を利用した交易・流通に関わる集落であった可能性も考えられる。なお、中世の遺構検出面よりもさらに下層では、弥生時代中期の水路跡や、縄文時代後期末～晩期初頭頃の丸木舟２艘が検出された。 専光寺脇遺跡は、益田平野の東側の丘陵尾根上に位置している。方形貼石墓（１号墓）と、弧状の貼石列を伴う貼石墓（２号墓）が検出された。２号墓の出土土器からこれらはおおよそ弥生時代中期後半頃のものと考えられる。益田平野周辺では弥生時代の墳丘墓の調査は初めてであり、この地域の弥生時代の墓制を考える上で重要な資料となる。また、方形貼石墓や貼石墓の最西端の確認例として注目される。

※北緯・東経は、世界測地系による

一般国道９号（益田道路）建設予定地内
埋蔵文化財発掘調査報告書５

沖手遺跡
専光寺脇遺跡

－中世の大規模集落遺跡と弥生時代の墳丘墓－

発　行　2008（平成20）年３月
発行者　国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所
　　島根県教育委員会
編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
　　〒690－0131　島根県松江市打出町33番地
　　電話　0852－36－8608
印　刷　島根印刷株式会社